



1 法人（本部）及び事業運営

平成26年度の課題は、主に平成27年度予算から社会福祉法人新会計への移行するにあたって、会計および事業按分、固定資産等について検討することであった。

新会計について、平成27年度当初予算から新会計基準に移行することができた。また、予算を組む中で事業按分や固定資産の整理を行った。特にパソコンについては、OS windows XP のサポート終了に伴い新規に購入し対応した。費用負担については各事業所にて計上した。

土地の購入について、分場だいちの裏手にあたる土地（下関市稗田中町183番1 [209.12㎡] 及び183番2 [225.23㎡]）の購入をした。既存の分場だいちと合わせると900.17㎡（約272坪）になり、メンバーの園芸等の活用や職員駐車場として利用している。

職員の入浴介護軽減について、中小企業労働環境向上助成金を活用して入浴特殊浴槽を導入した。そのことに伴い浴室の改修工事（床のフラット化、排水、給水、暖房）を行った。

平成26年4月より消費税8%に伴う報酬改定が施行されたが、運営に対して大きな影響はなかった。

〈生活介護サービス事業所じねんじょ〉

平均利用者数は25.0人、出席率は89.6%であり、利用予定計画を大きく下回った。この要因としては、3名のメンバーが入所したこと、じねんじょへの通所と並行して、短期入所を計画的に利用されるメンバーが増えたこと、病気や胃瘻造設のための入院があったことがあげられる。

メンバーの家族状況の変化やメンバー自身の加齢化、機能低下なども相まって、今後も短期入所の計画的な利用や長期的な入院の可能性は考えられる。前者については、安定した在宅生活の継続には必要なことであり、そのことを前提とした利用計画を立てることが必要である。

後者については引き続き理学・作業療法士によるボイタを中心とした体調管理や看護師による日々の健康観察などを行い、早目の対策をしている。

〈むくっこ〉

登録者の人数は11名であり、実利用者は7名であった。平均利用者数は2.4人、出席率は75.1%であった。

児童指導員2名、看護師1名、理学療法士1名を固定で配置し、早期療育の充実を図った。冬季に感染予防対策で通園を控えたメンバー・家族に対しては「家庭連携」（居宅を訪問してメンバー、家族等に対して支援をする。）を利用して子育て・生活支援を行った。

〈む く〉

利用者状況は、平均利用者数 5.4 人で、出席率について平成 25 年度に続き、84.5%と好調であった。引き続き処遇職員の固定化を図り、受け入れ準備から学校への送迎、活動、帰りの親への引き渡しまでの一連の流れに同一職員が係わることによって、学校、親と密接な連携を図り、児が安心、安定した生活が送れるようにした。

〈ヘルパーステーションふわり〉

事業 3 カ年を経過したが、じねんじょ登録メンバーの外出支援と居宅における身体介護を行っている。外出支援を通して活動範囲の広がりだけでなく、家庭やじねんじょとは違うメンバーの意思表出などが見られている。また居宅における身体介護は、メンバーの安定した在宅生活継続の一助となっていると思われる。

これまでの 2 カ年と同様に、体調不良や体調管理の観点から冬期の入浴を見合わせることや悪天候による外出中止によるキャンセル率が 14.7%であった。これを収入勘算すると 120 万～150 万円となる。

予めキャンセルを見越して、利用予定計画を立てることが望ましいと思うが、ヘルパーは他事業所との兼務であるため、稼働率を上げようとする、他の事業の円滑な運営に支障が出る。コミュニケーションをはじめとし、様々な配慮を要するメンバーの支援にあたることになるため、ヘルパーのみの雇用は試みていない。また仮にヘルパーのみの雇用をした場合、実稼働時間が 1～1.5 時間のため、ヘルパーのみの雇用では収入の安定がない。以上のことからヘルパーを増やし、稼働率をあげることが難しい状況にある。

2 委員会・部会の活動状況

施設運営委員会を第 3 火曜日定例で開催し、構成委員は、理事長、センター長、各管理者の 4 名で、月次報告、法人及び各事業の運営状況、今後の事業展開について共通理解、諸課題の抽出、解決にあたることができた。その他の各委員会、部会においても「じねんじょ」の理念を大切に活動を行なった。特に支援計画部会では、メンバーを中心とする支援の「個別支援計画」の実現のために、職員一丸となって個別支援計画書の立案、実施、評価に取り組むことができた。